

---

# あなたに似た人

志内炎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あなたに似た人

### 【コード】

N0929C

### 【作者名】

志内炎

### 【あらすじ】

穏やかな恋の終わりをむかえた、ある女性。失恋のつばやきの一つの形。

(前書き)

この小説は完全なフィクションです。

思い出す。

そんなに大きくないけれど、引き締まった腕や脚。どちらかといえば、毛深いけれど、髪は意外と柔らかい。肩幅はもしかしたら、私の方が広いかも。

顔は小さくて、顎に触れると、掌に骨を感じるような感触。柔らかい唇。鼻先は少し下を向いている。長い下睫毛。冷たい目。ただいつも何かに脅えているような、優しい瞳。

いつものように寝汗をぐっしょりとかいて、目が覚める。あらかじめ枕元に用意しておいたTシャツに手を伸ばし、寝転がったまま、着替える。

(今私、夢の中でセックスしてたな)

苦笑い。つい昨日まで付き合っていた男がいるのに、最後にキスしたのがいつか、思い出せない。

最近は何んかばかり。多分もう愛想を尽かされただろう。

(フラれた?)

また苦笑い。いつも待たされるのは私の方だったのに。

目を閉じて夢を思い出す。快感よりも、罪悪感が募る。相手の顔は思い出せない。

(彼じゃなかったな)

だって、指先が細かった。彼の指は先がひらべったい。丸い爪。右利きなのに、左手の方が指が太い。

(好み、かわったなあ……)

彼に会う前は、体重が倍くらいある人が好きだった。広い胸に抱きしめられる事で、自分が女である事を確認していた。

彼の前では、何もしなくても、自分が女であることを意識していた。

(私、本当に愛されてたのかなあ……)

出会ってすぐから、デートは月に2回止まり。一旦眠ってしまつと電話もメールも繋がらない。

(浮気?……それはないなあ)

また苦笑い。根拠は全くない。

(私が浮気?……も、ないなあ)

何故信じているんだろう。

何度言つても、約束を守れない。好きなのに疲れる。いや、好きだから疲れる。

(わかつてるけど……もうやめよう)

布団に包まる。お揃いの指輪が第二関節までずれる。

(これ以上、痩せちゃいけない)

私だって、誰にも迷惑をかけず、生きていかなきゃいけない。

不思議と涙は出ない。

(最初から予感してた、かな)

生まれ育つた環境が違い過ぎた。あまりにも都会と田舎だと、流れる時間の感覚まで違って来る。

(私、頑張つただけだなあ……)

掌をぎゅっと握る。指輪が隣の指に存在を主張する。

好きだけど、これ以上頑張れない。頑張ろうとすればする程、傷つけていく。

自分を表現するのが下手な人だった。

(ひとの事、言えないか……)

愛してるという、彼の言葉にうまく答えられなかった。大好きなのに、同じように、愛してるとは言えなかった。

(そんなに簡単に言っちゃいけない)

その言葉を口にすれば、すべてが嘘になる気がした。

結局、たいしたデートはしなかった。映画、旅行、東京タワー……

置き去りの約束だけが、ゆっくりと色を失っていく。

平凡で幸せな家庭が、彼の夢だった。

(その割にはなんの準備もしなかったじゃない？私、おばあちゃんになっちゃうよ)

私は家庭を持つ事により興味がない。でも……

(彼の息子のママになりたかったな……)

身体を延ばして天井を見つめる。携帯に残る最後の短いメッセージ。

『バイバイ』

それがすべて。深いため息をついてから、彼に関するメモリーを消去した。

きつとまた、思い出す。

街ですれ違う人に、仕事で知り合う人に、テレビで流れる人に、あなたを捜す。そして、捜すのを辞めた時、初めて泣けるでしょう。

指先のひらべつたい手。傷だらけの腕。何も信じていない冷たい目。何かに脅える優しい瞳。もう二度と抱きしめる事のできない、やわらかい髪。

もう二度と出会う事のできない、あなたに似た人。

もう二度と。

(後書き)

どんなに傷ついても、人はまた恋をする……詩のような感覚で書き  
ました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0929c/>

---

あなたに似た人

2010年10月11日01時31分発行